

会 議 録

会 議 名	平成27年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開 催 日 時	平成27年10月13日（火）18時30分～20時00分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志副会長 村澤 司委員 上田郁子委員 小林正隆委員 平岡良一委員		
欠 席 委 員	（な し）		
事 務 局 員	学芸顧問 薩摩雅登 コミュニティ文化課文化推進係 吉川、井上 同 はけの森美術館学芸員 中村、鈴木		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	（1）事業実施報告等 （2）提言の内容等について （3）その他		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	（1）開催した展覧会・ワークショップ等及び今後の予定 （2）平成27年度年間スケジュール （3）ワークショップ等アンケート結果（一式） （4）提言（案）		

【鉄矢会長】 平成27年度第3回小金井市立はげの森美術館運営協議会を始めた  
と思います。

配付資料の確認から。

【中村学芸員】 次第が1枚と、資料1から4がございます。あとは、皆様の机に  
「串田孫一展」のチラシと招待券を置かせていただいておりますので、ぜひごらん  
ください。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。資料の確認が終わりました。  
では、次第に入る前に。

【平岡委員（館長）】 では、私のほうから、4月に人事異動がありまして、指導室  
長が交代いたしましたので、小林指導室長をご紹介だけさせていただきます。どう  
ぞよろしくお願いいたします。

【小林指導室長】 どうぞよろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】 では、次第のほうに入っていきたいと思います。  
事業実施報告等。

【中村学芸員】 資料1をごらんください。開催した展覧会・ワークショップ等  
について、ご報告します。

まず、所蔵作品展「けんぼしゃんの夏休み」が9月13日（日）に終わりました。  
入館者数が755人ということで、前年の猪熊展は人気があったので、すごく人数  
は多かったんですけども、それに比べると少し人数は少なくなってしまいましたが、  
調べましたところ、子どもの割合が入館者数のうちの約2割で、猪熊展の時は  
約6%だったので、子ども向けの展示ということで、子ども達にたくさん来ていた  
だけなのかなと分析しております。意外と中学生に今回は多く来てもらったので、  
多分配布したワークシートも小学生向けだったので少し物足りないのかなと思うこ  
とが多かったりしたので、そういったところも今後の展覧会に生かしていきたいと  
思いました。

関連企画として、鑑賞+創作プログラム「線であそぼ!」「色であそぼ!」という  
ものを2回開催いたしました。これは、講師の方が「えほんとあそぶアートのおう  
ち」という方々で、藤田さんという方が女子美術大学で講師をされており、絵本の  
WSなど実践されている方で、内容として、第1回、8月2日に開催したものは、  
中村研一の「線」をテーマに、「線」にまつわる絵本を導入として朗読した上で、ワ  
ークシートに作品の線だけ拡大したものを配って行って、どこの線か探すというも  
のでした。筆のタッチだったり、ペンのタッチだったり、それぞれ違うので、どう  
いった線かというのを、作品をよく見ながら観賞するというような内容でした。そ  
の後参加者にいろいろな線、例えば音で指示をして、「ガーン」という線を引こうと  
言ったら、みんなでガーンというイメージの線を引いたりとか、「クルクルクル」と  
言ったら、クルクルクルというような、擬音をテーマにいろいろな線を引いてもら  
うとか、そういった内容でした。最後は、大きい模造紙を敷いて、思い切り線を引  
いていくというような感じにしていました。

2回目の「色であそぼ!」なんですけれども、これも中村研一の作品の「色」に  
注目するというので、色に関する絵本を読んだ後に、みんなに100色折り紙の

チップを渡して、着色折り紙を持って展示室に行って、この中で同じ色はないかという色探しをして、見つかった色をポシェットに回収していくということで、色を当てながら、この作品にはこの色があるねという鑑賞をします。自分で見つけた色は、後で自分のパレットに貼って行って、たくさん見つけたね、こんな色があったねということをみんなで見せ合いました。最後は、大きな模造紙に自分たちで好きなように色を貼っていく工作を行いました。非常に見づらいですが、模造紙の上に美術館の模型があり、美術館の周りを色んな色紙を貼って大きくカラフルな作品を皆でつくりました。

それぞれ参加者は、「線」の方は19人で、「色」の方は27人ということで、色の方が申し込みは人気がありました。アンケートは、後で目を通していただければと思います。比較的満足度の高い企画だったので、今後、もうちょっとこういった形で、鑑賞と絵本を組み合わせたいと思います。

プログラムに関しては以上でございます。

続きまして、「おはなしのへや」ですが、今回8月19日には小学生向けということで、開催しました。1回目は幼児と保護者だったのですが、今回、2回目は小学生向けということで、幼児がいるとできないようなものやってみようかということで、この日は肝試しや、怖い話をテーマに、こごうちぶんこの方がいろいろアイデアを出してくれて行ったワークショップでした。まず暗い照明の部屋の中で、みんなで怖い話を聞いて、ちょっと涼んだ後に、自分たちで体を動かして、実際におばけになったつもりで人を脅かそうという演劇的なことを行いました。小学生の女の子の参加が多かったのですが、最終的には、子どもたちが自分たちでセットをつくり、大人たちを脅かそうというアイデアを考えて、自分たちで創作していたので、いつもとは違った内容ではあったのですが、空間や身体表現を行う新しい形のワークショップになったのかなと思いました。

おはなしのへやに関しては以上です。

展覧会の関連企画ではないのですが、教育普及事業としまして、10月7日、図工の先生と連携し先週の水曜日に東小で研究事業を行ってきました。こちらで授業でやるのは2回目ということで、去年の猪熊展の際にも一緒にやらせていただきました。4年生のときの鑑賞教室で美術館に来ていただいて、去年は猪熊弦一郎の対話彫刻を授業で作って、今回6年生になり串田孫一についての授業をやらせていただいて、同じ生徒に3年間関わらせていただけたというすごく貴重な経験をさせていただきました。今回、串田孫一の授業につきましては、串田孫一はやはり文筆業が有名ということもあり、今回、詩を用いた授業を行いました。串田孫一の詩をみんなに配付して、それを見て感じたことをみんなコラージュで表現しました。コラージュを行ったのは、串田孫一も実はコラージュをよく行っていたからですが、みんなそれぞれ、難解な詩でも、それぞれ言葉の意味を色に置き換えたりとか、いろいろな言葉を自分たちで表現して、作品を作っていました。最後には、串田孫一の展覧会につなげるような形で串田孫一の紹介も行いました。

**【鉄矢会長】** ありがとうございます。今まで行ったものについて何かございますか。

【上田委員】 前から美術館の顔がないことが問題だと思っていたのですが、今回の研究授業は、良い試みだと思いました。3年間にわたり同じ生徒と関わることで、記憶に残る生徒も多いと思って、とてもいいなと思いました。それが美術館の顔として、生徒に認識され、ああ、あの人がはげの森美術館の学芸員だということが広まるのは良いことだと思います。

【鉄矢会長】 では、続いて。

【中村学芸員】 では、今後、開催予定の展覧会ワークショップということで、皆様にチラシを配付させていただきましたが、企画展「生誕100周年 串田孫一」という展覧会を11月3日から開催いたします。今回の展覧会に関してはチラシをご覧いただければと思うんですけども、いろいろな関連企画も展開いたします。まず、トークセッションということで、この企画に関しては、小金井宮地楽器ホールと共催で行うものでして、安野光雅さんと黒井千次さんという小金井を代表する文化人の方を迎えて、串田孫一さんのお話を伺います。また、トークセッションでは、小金井市民オーケストラのメンバーの方の演奏も行う予定です。

「詩の楽しみ方を学ぶ」という、こちらは授業形式のワークショップなんですけど、これはこごうちぶんこさんの協力により、開催するものでして、講師の川島さんという方が、教師をされていた方なんですけど、子どもの言葉や考えをととても上手く引き出せる方ということで、串田孫一の詩をテーマにして小学生を対象に開催する予定です。

また、串田孫一は様々な分野で活躍していますけれども、哲学者として、もともとは哲学を勉強されていた方なので、哲学的なイベントもできないかということで開催するのが、「みんなで見よう話そう！ 美術館×てつがくカフェ」というものです。NPOこども哲学おとな哲学アーダコーダの井尻さんという方をファシリテーターに迎えて、みんなで作品を見て感じたこととか、思ったこととかを対話するイベントを開催します。

もう一つ、ギャラリーコンサートを開催いたします。これは展示室で、先着20名の席を用意して、作品を見ながら音楽を楽しむというイベントです。串田さんは音楽にも造詣が深く、音楽のラジオパーソナリティーも長年やっていたということで、企画しました。詩だったり、音楽だったり、哲学だったり、いろいろな企画がありますが、そういった企画を通して串田さんの多角的な面を感じて頂きたいと考えています。

あと、各小学校のスケジュールの関係で、鑑賞教室では9校中7校が串田孫一展に入館していただくことになりました。また、開催期間中に職場体験ということで、南中学校の生徒4名が体験することとなっております。

非常に簡単な説明になってしまいましたけれども、以上で開催予定の報告になります。

【鉄矢会長】 資料2、3の説明についてお願いします。

【中村学芸員】 資料2に関しては、開催予定のスケジュールがわかりやすくまとめた形です。

資料3に関しては、既に開催したワークショップのアンケートになっております

ので、皆様、お目通しいただければと思います。

**【鉄矢会長】** では、アンケート等もお目通しいただいて。

このアンケートの内容に、「幼児にムリなく参加できる内容だと思えますが、ホームページにC o C oバスの時刻表の表記してもらえると助かります」というような意見が出た場合は、事務局としてはどういように対処しているんですか。向こうがボールを投げてきたので、どういように戻したのか、それとも返さないのか、どういった形をとっているのか。

**【中村学芸員】** 今回、鑑賞プログラムの2回目のアンケートに、こういった要望が書いてあったと思うんですけども、1回目開催したときに、アンケートには直接はなかったんですけども、実は参加者から道がわかりづらかった、歩く方法しかないのかと思ったという意見を頂きました。第1回のプログラムの申し込み者に対して、メール等を返信をする時に会場へのアクセス情報として、武蔵小金井駅から徒歩15分と書いていたんですが、徒歩15分と書いていると、徒歩でしか行けないのかと思う方がいらっしゃるということをそのときに気付かしまして、アクセス情報にC o C oバスのルートがありますというのを第2回のプログラム申し込み者に返信を出しました。その表記をしたんですけども、おそらくC o C oバスに乗ってこれることができるというふうにしかなかったの、時刻表をのせてほしいという要望があったと思うんですけども、なので次回からはC o C oバスの時刻表のリンクを貼るなど対応したいと思います。

**【吉川係長】** 多分、市役所のホームページの交通対策課のページに時刻表があったのではないかと思います。

**【中村学芸員】** はい。それだと、こちらもやりやすいので、ホームページにリンクしたいと思います。

**【鉄矢会長】** 私が伺いたいのは、こういうふうアンケートに書いたら、来館者がちゃんとこう書いてくれましたよということ、アピールするか、アピールせずに対応するのかどうかということです。市民がこう投げたので、投げたら聞いてもらえたんだというのは、聞いたという、この回答をした市民だけが理解するか、それとも今後もこういう美術館運営に対して何かご意見あったときにアンケートに書いていただければ、なるべく、可能なものはよく改善していきたいと思えますみたいな表現も含めて、こういうものを市民の皆さんの声で少し改善しましたということのアピールポイントにもなるかなと思ったので、実際の対応はどうかというと、もしくは美術館としての姿勢をどのようにアピールするか。例えば、市民から毎回来るようになったら面倒くさいから、アピールせずに対応するという考え方もあると思います。そういう意味ですので、少し検討いただきたい。

**【吉川係長】** アンケートに関して、アンケートですから、個々に検討していく必要まではないと思えますけれども、やはりマルだけつけるとか、あるいは1、2、3、4、5とか、満足度ということにチェックをつけるのではなくて、文章に書いてくれたことはかなり貴重な情報なので、これはきちんと受けとめていきたいと思えます。

**【鉄矢会長】** そのほかございますでしょうか。

【山村委員】 1月3日からの串田孫一展について、これは、小金井にずっと住んでいらっしゃる方は安野光雅さんだけでなく、小説家の黒井千次さんも小金井に住んでいるの。

【中村学芸員】 小金井に住んでいる方です。

【山村委員】 せっかく、そのお2人が、こういう機会に来ていただいて、お話をいただくというのは貴重な機会ということで、こういうお話をいただきましたということはぜひまとめて下さい。安野さんは二紀会にいらっしゃった画家ですし、多摩の芸術家を調査していく中では非常に重要だと思いますので、色々お話をきいて下さい。

【中村学芸員】 はい。

【山村委員】 コーディネートされたのは？

【中村学芸員】 私が中心でやってはいるんですけども、もともと安野さんや黒井さんに関しては、ご遺族の串田光弘さんに紹介してもらいました。当初、ご家族の方にも出演してもらいたいと思っていたんですけども、自分が出演するよりも、こういった方々にお話していただいた方が良いのではないかとということで御紹介頂きました。

【鉄矢会長】 2人とも串田さんと交流があったんですか。

【中村学芸員】 はい、親交があった様です。

【鉄矢会長】 小金井に関する資料はありますか。

【中村学芸員】 全てかどうかというのはわからないんですけども、原稿だったりですとか、蔵書は寄贈されている様です。おそらくですが、まだご自宅にも何か資料はあるのではないかなとは思っているんですけども、今回はご遺族が持っていらっしゃる絵などもお借りして展示できたので、いずれ小金井に関する資料についても調査していきたいです。

【薩摩学芸顧問】 これもちょっと補足いたしますと、串田孫一さん、文化的に、またいろいろな意味で非常に大きな存在の方だと思うんですけども、ですから、ちょっとどの段階、どの程度のレベルまで突っ込んでいけるか、ちょっとまだまだこれから頑張ろうというところなんですけれども、多分、資料は、熱烈なファンがいらっしゃったこともありまして、よく言えば散逸せずに、ある程度東北に北海道にまとまっている。それから、東大に寄贈されて、それから、多分、今の小金井のご自宅のほうにもあるんじゃないか、残念ながら小金井市が、そういうものを受け入れできなかったということもあります。

そんなこともありまして、いわゆる活動の中心となった小金井市で、これはこれからのこともありますので、美術館で全部著作を集めようということで、これもどれだけ集められるかまだわからないのですが、なにしろ、いろいろなものをお出しになられていて多彩な方なので、多分、もう一回展示をするようなぐらい、引き出しの多い方です。著作の数だけでも300冊超というとても多い量ですが、まず代表作をそろえようということで「アルプ」全巻を私が購入し寄贈しました。

【鉄矢会長】 そのほかのご意見。なければ提言の内容等について、資料4。これは、せっかくですから内容を確認すればよろしいのでしょうか。もうこのまま、これで

了とすれば良いのでしょうか。

【吉川係長】 いいえ、そうではなく、開催通知に書かせていただきましたように、前回の運営協議会の時に、会長、副会長から指摘のあった部分については追加や修正をしました。自主企画展の提言において、「言語道断」という言葉があったんですが、言葉が強いということで、会長のほうと相談し直してみました。

あと、評価と課題のほうは、同じテーマで両方を選べるようにしたほうがいいんじゃないかということで、同一にしてサブタイトルをつけまして、4つの内容に分けたんですけれども、途中、ちょっと評価の3番と、課題の1番が、結構、内容が薄くなっているのではないかと思います、今回皆様にご検討頂きたいと思います。

【鉄矢会長】 スケジュールとしては、どうなりますか。

【吉川係長】 本日、この案のままですと承されるのですれば、そのまま市長に提出することとなりますが、ここでやっぱり変更しようというのであれば、次回を待たずにここで意見をいただいて、こちらでまとめて、委員の皆様へ郵送でお送りしたものを確認頂いて11月中旬に市長に提出したいと思います。

【平岡委員（館長）】 11月上旬ですね。

【村澤委員】 難しいですね。この前の郵送でいただいたものと、今日いただいたものと、ちょっと中身が違っているようなんですけど、何か変更されたんでしょうか。

【吉川係長】 郵送したものと、中身は変わっていないと思います。

【村澤委員】 評価とか課題のほうの別紙のほうは、ちょっと変わっていましたよ。今日配っていただいたほうが最新ですか。

【吉川係長】 はい。新しいものになっています。

【山村委員】 ごめんなさい、どこが違っていましたか。

【村澤委員】 この前のはカラー刷りだったので。色刷りだったんですが、今回は違いますね。

【吉川係長】 これはモノクロになると読みにくいので、別の色にしました。

【村澤委員】 内容も変更がある。1番のところは何か短くなっちゃって。結構、カットされましたか。

【吉川係長】 これは、評価と課題がわかりづらくなってしまったので、これをそれぞれ別けて表記して、見やすいようにいたしました。

【村澤委員】 では、文章は変わってなくて、レイアウトが変わったんですね。

【吉川係長】 はい。レイアウトは、すいません、変えました。

【鉄矢会長】 それでは本日いただいたものを基に考えましょう。内容はどうか。評価の3と課題の1の事例を挙げていただけというふうにして、あとは、また期限を決めて各自を返信する形かなと思うのですが。

【山村委員】 メモをしたんですけど、それをお聴きいただきたいのですか。

【鉄矢会長】 はい。

【山村委員】 1と比べてみますと、今後の課題、評価と課題の中の3番目の「運営全般・広報について」の1のところ、SNSの活用といった部分が、提言のほうの4番「広報の充実」のところに、もう書かれているので、重複しているところを

カットする。

【吉川係長】 はい。

【山村委員】 それで、本文のほうに、例えばツイッターやフェイスブックなど、SNSの活用も具体的な形で補足するか、あるいは、そちらの提言には具体的に入れなくていいかどうか、その辺のところは検討して下さい。

【事務局】 はい。

【山村委員】 それが1つと、それから、評価と課題の4番目、地域との連携について、これは評価のほうに入っているんですが、これまでの評価、これで見ると、評価というより課題だと思うんですが、この期待しているとか、継続してほしいとか、今後への要望だから、これは課題のほうに持っていくべきじゃないかと思えます。

それから、さっき話も出したんですが、今後の課題の2番目の作品の収集、調査、研究等について、私、立場的にも、ここが一番大事だと思っているんですが、文言も、ちょっといろいろあるんですけど、多摩地域のマスコミ・デザイン・建築関係を含め、特に1960年代に活躍した美術家の関係者がどんどん高齢化しているので、在住の関係者の話を聞き取ると、調査研究を行うとともに、関連企画展を開催するなどしてこの時代の作品やアーカイブ資料の収集に努めてもらいたいというのを、ぜひ入れてほしいんですが。さっきの串田さんの話と関連しますが、小金井市も含めて、多摩地域の、特に美術だけじゃなくて、写真、建築、デザイン分野の方々も最近、亡くなってきて、資料が散逸している傾向があるので、できれば、そういうことも調査収集するというふうに。

【吉川係長】 はい。わかりました。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

【山村委員】 先程のお話ですけど、いただいた開催通知に、課題1について、教育普及事業の部分と評価の運営全般について、検討というふうになったので、見てみましたが、評価のほうで、たくさん項目があるところは、課題のほうを少なくしても仕方ないし、逆の、また評価のほうで項目が少ないところは、課題が沢山あるということなので、多くなってきても仕方ないと思えます。見ていると、評価の多いところに対し、課題については少ないので、これは、そんなにおかしなことというのではないのではないかなと見て思いました。

【村澤委員】 具体的な話になっちゃうんですけども、今後の課題のほうなんですけれども、3番のところですね。さっきの話の中にもあったんですけども、アンケートの中にもありましたけれども、アクセスですね。アクセスと、やはり立地がよろしくない所もあって、1番のところの、SNSやいろいろフェイスブックとか使われるのもいいんですけど、アクセスの面で、道路に案内図とか、あと、駐車場がやはりないというのは、問題だと思います。やはり必要じゃないかと思えますので、何か方法はないのかなと。1台だけだったら、確かにとめられるスペースがあると思うんですけども、少ないです。どう考えても。

あと、宣伝のところ、昨年、カレンダーをつくったと思うんですけど、とても良かったので、カレンダーは、一つの方法かなと思います。ただ、昨年のカレンダー



一は文字が大きくない、すごくちっちゃくて、高齢の方たちが読めないかなというのがあるので、もうちょっと字を大きくして、読みやすいものにつくったら人気があると思います。ただ、それをどういうふうにするのかが問題ですけど。

あと、ちょっと長い話で恐縮なんですけど、1枚目の提言の部分の中の「記」の下のところ、一方、課題も残っているのちょっと上なんですけど、「健闘」の字が違っていています。

【吉川係長】 はい。

【薩摩学芸顧問】 そういうのは言ういただけるとありがたいと思います。昔、手書きのころというのは気づくんですけども、ワープロ、パソコンになると、打った人は変換ミスになかなか気づきにくいことがあります。

【吉川係長】 その他の誤字なども赤字を入れたもので、後日郵送でいただければと思います。

【鉄矢会長】 あと、一つこれは訂正というか、提言のほうの3番目、運営改善の必要性で、要は、週5日開館とするとの方向についての、今の文面は試行等の形、つまり実験的な試行という、試しに行くという形になっているんですが、これは例えば臨時休館日という形で、火曜日、休館にするとかということで教育委員会に諮るとか、そのような形って可能なのですか。

【平岡委員（館長）】 事務手続から言いますと、こちらの場合は市長部局なので、諮るところというと、条例改正です。

【鉄矢会長】 こちらで、展覧会毎に、どこかに臨時休館日ということで決めて、例えば28年度は火曜日を臨時休館日としますと。条例で休館日になったのは、月曜日と、年末年始だけなんだけれども、火曜の日は、臨時休館日ですよというぐらい、柔軟な方法はないんですか。

【平岡委員】 そうですね。そこは多分、解釈上の考え方になってくるとは思うんですけども、年間通して、結果として、月曜日と火曜日が全て休館になるような、半分以上とか、大半休まれているような形だった場合に、臨時と言っていいのかどうかというのはあるかと思います。

【鉄矢会長】 展覧会なんかだと、この期間だけは月火休みとか、臨時的な休館日としての期間だから、毎回同じじゃない曜日にするとか。

【平岡委員】 そうですね。そのあたりを含めて、今ここで結論を出すと言うのではなく、様々な検討の可能性も含んでいただく上でも、試行的という言葉の方が、適切ではないかと思います。

【鉄矢会長】 わかりました。

【鉄矢会長】 ほかに、よろしいでしょうか。

じゃ、その他、意見交換等ということで、どなたか、意見交換お願いします。

【小林委員】 これを読ませていただいて、今のお話も伺った感想として、先ほどの報告の中でも、教育普及事業ということで、小学校4年生の鑑賞教室と、それから、職場体験の受け入れとって、学校のほうからも報告を受けているんですが、なかなか、図工の先生、担任だけでは対応できない内容や、また、美術の専門の先生方に指導していただきながら授業を行うと。それから、この中にありましたけれ

ども、4年生のときに美術館を訪問して、中学生になると、また職場体験。そして、きっとその子がキャリアを、これから踏んでいくんじゃないかなというものを想像できるんですが、子どもたちの体験活動や本物を見る力を育む取り組み、それから、その子の一生涯を、もしかすると、この美術館が支えていくことになるかもしれないということで、私も、今日、この提言を読ませていただきながら、話を伺って、教育普及事業というのは、大きな力だなというふうに、子どもたちにとっては、小金井の子どもたちにとっては、非常に貴重な力だということを感じました。

また、この、研究授業というのは、授業を行ったのですか。

【中村学芸員】 はい。

【小林委員】 公開授業ですね。

【中村学芸員】 はい。

【小林委員】 図工の先生と一緒に。

【中村学芸員】 一緒に。はい。

【小林委員】 そうですか。なので、また何か校長会で宣伝等をするものがあつたら、私のほうからレジュメに入れて、こういう取り組みがあると宣伝できますので、その辺はお気軽にご相談をいただくとともに、今後も、子どもたちのための企画というんですか、またお力添えいただければと思ひまして、お話をさせていただきました。

【薩摩学芸顧問】 ちょっとお話いたしますと、私、ずっと美術館をつくるところから関わってきて、やはりその議論の中でいろいろあつたことなんですけれども、やはりこの美術館の規模、それから立地条件、その他いろんなことから考えて、この場合、例えば、車が何台も来てみたり、開館前に何十人来て、直営になるような美術館には、ちょっとこれは規模的に、立地的にいってもなり得ないだろうと。ただ、そのかわり、小金井で初めてできる公立の、市立の美術館であり、立地条件からいうと、真ん中にありまして、いろんな小学校、中学校とですね、ある意味で公平に、平等につき合える場所にあるというようなことも考えていって、いわゆる、とにかく大規模展をして人を集めようなんていう館ではなくて、ちゃんと個性を出して、そしてそれを社会教育、あるいは学校教育とも連携していこうということが基本方針としてありまして、また、なかなかそれができなかったということが当初はあつたんですけども、やっと10年で機能してきたかなということで、中のほうに関しましても、いろんな企画とか、割合に子どもに、お子さんか行けるような、あるいは、それから今回の串田孫一の、この彼の絵も、これはほんとうに、まさに私は子どもに見てもらいたい絵なんです。そういう方向でこれから次の10年目、発展していければと思ひますので、またよろしくお願ひいたします。

【鉄矢会長】 そのほかありませんが、ご意見。

【吉川係長】 すいません。提言に関する事務作業についての確認なのですが、よろしいでしょうか。

この後の事務作業としては、今、一応この場でもご意見はいただいているんですが、改めて修正や追記事項がありましたら、10月の、来週の24日ぐらいまでにご意見をいただければ、こちらで反映して、皆様に1回、10月中に送らせていた

できます。そこで問題がなければ、11月の予算要求前に提出する形でよろしいですか。仮に何度かやりとりが発生するようなことがあれば、最後は会長とご相談させていただいて、決めさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　　ちょっとベーシックな、中長期的な計画、学芸員の任期とかもあるということもあって、例えば5年ごとにこんな計画でというか、何かフォーマットで決めなきゃいけないとか、実施計画だとか、そういうものってあるんですか。総合計画がありましたよね。それに沿って、20年になったら改装だとか、そういうのがいっぱい問題になっていましたよね。それとの絡みというのはどうなんですか。

【平岡委員】　　基本構想や基本計画などでは、ハード面の詳細などまでは言及しませんので、例えば、美術館全体として必要であるということや、今後の展望について触れるような形となっていますので、現在のものとして、今、最重要計画自体の中には美術館としては出てきてはおりますが、そこまで詳細は記載してはおりません。

【吉川係長】　　芸術文化振興計画自体が今7年目で、そういった点についても美術館が今持っているものをどう活用するのかということも、次の計画の中で、今までであった10年間の計画の振り返りに関してどうか評価してもらおうと今ちょっと考えているんですけれども、今度は、もうちょっとアンケートのデータを活かして数値的な目標や評価も行っていきたいとは思っています。もうちょっと市民の方が見てわかりやすく概念的なものを具体化したものであればと思っております。

【鉄矢会長】　　それは現状の振興計画、従前計画で10年スパンで動いているものだから、来年あたりに新しい芸術振興計画をつくるという感じですね。それと総合計画の方は、今後の取り組みに向けた後期基本計画を策定しているところです。

ほかにご意見が無ければ、次回運営委員会の日程を決めたいと思います。

【平岡委員（館長）】　　2月の第1週、2月2日あたりはいかがでしょうか。

【鉄矢会長】　　では、2月の2日でいいですか。2月2日で。ちょっと事情が変わった際は、またご連絡させていただきます。

【吉川係長】　　場所は、はけの森美術館2階多目的室で行ないます。

【鉄矢会長】　　では、他のご意見はないようですね。それでは、平成27年度第3回小金井市はけの森美術館運営協議会のほうを閉めさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —